平成26年度第3回全体検討部会後の意見に関する対応について

参考資料１－２

計画での対応箇所における凡例

抜：最終答申　抜粋版

基：最終答申　第1編 基本方針

■全般

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 | 計画での  対応箇所 |
| 事務  局 | 表紙タイトルの確認 | 「大阪府都市基盤施設長寿命化計画」の策定に向けて（答申）とする。 |  |
| 事務  局 | 基本計画の構成の変更 | 「3.大阪府都市基盤施設長寿命化計画（案）の構成」を2章に |  |
| 事務  局 | 基本計画の図・表番号の変更 | 章単位の番号付与（例：表1.1）を  節単位の番号付与（例：表1.1-1）に変更  ただし、節番号のない図5-1および表5-1、5-2を除く |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 | 計画での  対応箇所 |
| 木元 | 国はじめ全国に向け  →国および全国の地方自治体に向け | 修正 | 抜：P.1  基：P.1 |
| 木元 | 中間とりまとめ後も各部会で議論を重ね  →中間とりまとめ後各部会でさらに議論を重ね  達したので、答申するものである  →達したため、素案としてとりまとめたものである  「23.大阪府における維持管理・更新の現状」では、 | 修正 | 抜：P.2  基：P.2 |
| 鎌田 | 府民の安全・安心の確保はもとより、大阪地域社会の発展と成長を支えるために、 | 修正 | 抜：P.3  基：P.3 |
| 鎌田 | 下水設備等部会  →下水等設備部会 | 修正 | 抜：P.43-44  基：P.5-6 |
| 鎌田 | インフラ長寿命化基本計画  （基本計画）【国】  インフラ長寿命化計画（行動計画）  ＝公共施設等総合管理計画  【各地方自治体が作成】  ※上記の赤字部分は、図の上部にある説明文中には記載がありませんが、これでよいかどうかだけご確認ください。 | （基本計画）を削除  本文中に、（＝公共施設等総合管理計画、総務省自治財政局財務調査課発平成25年12月3日付事務連絡）を追加。 | 抜：P5  基：P.11 |
| 鎌田 | 全国より5年建設ピークが早い  →全国より建設ピークが5年早い | 修正 | 抜：－  基：P.14 |
| 鎌田 | 劣化による腐食  →腐食による劣化 | 修正 | 抜：－  基：P.21 |
| 鎌田 | 経年劣化による錆発生および腐食摩耗  →錆発生および腐食摩耗  経年劣化による鋼矢板岸壁の腐食  →鋼矢板岸壁の腐食 | 修正 | 抜：－  基：P.25 |
| 鎌田 | OJT（On The Job Training）  →OJT（On the Job Training） | 修正 | 抜：P.7  基：P.29 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 | 計画での  対応箇所 |
| 木元 | これらを未然に防ぐためには、日常的な維持管理の着実な実施とあわせ、不可視部分も含めた点検業務の充実や、施設に現れる変状の兆候等をもとに的確な診断・評価を行い、最適なタイミングで補修を実施することや施設の特性等を考慮し、更新の見極めも行っていく必要がある | 先生からの修正（案）どおりに修正  「これらを未然に防ぐためには、日常的な維持管理の着実な実施とあわせ、不可視部分も含めた点検業務の充実、施設に現れる変状の兆候等をもとにした的確な診断・評価、最適なタイミングでの補修の実施、および施設の特性等を考慮した更新の見極めも行っていく必要がある。」 | 抜：P.9  基：P.32 |
| 木元 | (2)　維持管理の使命　の語尾の修正  します→する　　　いきます→いく | 基本方針は修正  答申は、参考として都市整備中期計画（案）からの抜粋となっているため、修正なし | 抜：P.10  基：P.33 |
| 鎌田  貝戸 | 評価、検証  →評価・検証  点検・評価・検証  →点検、評価・検証 | 修正 | 抜：－  基：P.35 |
| 貝戸 | 苦情要望  →苦情・要望（統一） | 修正 | 抜：－  基：P.35 |
| 貝戸 | 維持管理・更新  →維持管理・補修・更新 | 修正 | 抜：P.10  基：P.37 |
| 鎌田 | 「緊急点検」と「臨時点検」とが正しく使い分けられていないのでは？ | 修正しない  図5.1.2中では緊急点検と臨時点検とを並列で表記 | 抜：－  基：P.38 |
| 鎌田 | 定期点検のみ（近接目視）と、その手段が括弧書きになっている。 | （近接目視）を削除 | 抜：－  基：P.38,41 |
| 貝戸 | 図 5.1.3　点検～診断・評価～対策実施のフロー  緊急対応の有無で，不要と判断された構造物は全て診断・評価の過程へ進むということでよろしかったでしょうか？不要と判断された後で，診断・評価を行うというように読み取れます | 変更なし  ここでの緊急対応は、明らかに緊急対応が必要な場合を想定しており、それ以外は診断・評価へ進むと考えている。  詳細調査後に、緊急対応が必要と考えられる場合には、応急措置・補修等の対応を実施することとしている。 | 抜：－  基：P.39 |
| 貝戸 | ・・・その効果があったかどうかを目視などで経過を確認し、さらには補修後の経過観察を目視などで行い、記録する・・・ |  | 抜：P.14  基：P.44 |
| 山口 | 基本的には・・・原則とし、等  「基本的に」と「原則」はかぶるので「原則」を残し，「基本的に」を削除 | 修正 | 抜：P.14  基：P.47 |
| 山口 | 適切な維持管理手法や最適な補修時期を導く設定するため |  | 抜：P.15  基：P.47 |
| 山口 | 予防保全（予測計画型）と予防保全（状態監視）において目標管理水準のレベルは同じではないか？ | 予測計画型では、最適な補修タイミングが目標管理水準となるため、その違いと表現するために、あえて、位置を変えている。 | 抜：－  基：P.48 |
| 山口 | 「計画的に修繕することが困難な施設」を例示があると、理解しやすい。 | 参考資料編では、具体例を示している。 | 抜：－  基：P.48 |
| 山口 | (2)　標準的な維持管理手法の選定フロー  →(2)　維持管理手法の標準的な選定フロー | 修正 | 抜：－  基：P.49 |
| 山口 | 安全性・信頼性を損なう不具合が発生する前に対応を講じる施設（表現の統一が必要） | 修正 | 抜：－  基：P.49 |
| 山口 | 施設の安全性・信頼性などから設定 | 修正 | 抜：－  基：P.49 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 | 計画での  対応箇所 |
| 山口 | 同種の構造物における損傷を見逃さないためなど，その理由を簡単に追加記述 | 特定の施設に着目するのではなく、同種の構造物における損傷を見逃さないため、施設群として捉えることが重要（赤字部追加） | 抜：P.15  基：P.50 |
| 山口 | 予算制約等の理由により、 | 「の理由」を追加 | 抜：P.16  基：P.50 |
| 山口 | 日常的なパトロール等で変状の早期発見、およびそれに対して早期に対応すること | 日常的なパトロール等で変状を早期発見し、それに対して早期に対応すること | 抜：P.16  基：P.50 |
| 山口 | 施設の質の向上等  施設の質的向上 | 修正（赤字部追加、等の削除） | 抜：P.16  基：P.51 |
| 山口 | 既存不適格の例示 | 「例示」は、他での表現と統一するためそのまま | 抜：－  基：P.51 |
| 山口 | B活荷重対応の「対応の考え方」の文章修正 | 「B活荷重対応」の例そのものを削除した | 抜：－  基：P.51 |
| 鎌田 | 絶対に下回れない水準  →絶対に下回ってはならない水準 | 修正 | 抜：P.17  基：P.52 |
| 山口 | 不測の事態に対する管理水準の余裕幅 | 図タイトルは「幅」を削除。  図中は「幅」を示しているため、そのまま。 | 抜：－  基：P.52 |
| 山口 | 目標管理水準等を設定する必要がある | 「等」を削除 | 抜：P.15  基：P.53 |
| 鎌田 | (Co),(Mt)の表記について、何をさしているのか、表の下に注記すべき | 注）Co：コンクリート構造物、Mt：鋼構造物  と注記を追加 | 抜：－  基：P.53 |
| 鎌田 | 長寿命化の範囲は、更新、維持管理に加えて、廃止・集約化も含めたほうが良いように思う | 文章を削除 | 抜：P.17  基：P.54 |
| 山口 | 本計画での“長寿命化”は、・・・狭義の寿命化に留まらず、維持管理・更新も含めたを適切に行うことにより、将来にわたって必要なインフラの機能を発揮し続けるための取組みとする。 | 同上 | 抜：P.17  基：P.54 |
| 山口 | 分野・施設毎に更新の考え方、捉え方に相違があると考えられるため、実務担当者が分野横断的に俯瞰できるよう整理しその相違を明らかにする等、維持管理・更新の考え方についての理解を深めるとともに、府が管理する施設全体の考え方を横断的に把握することで全体の最適化をめざすことが必要である。 | 下記のとおり修正  「分野横断的に分野・施設毎における更新の考え方、捉え方を俯瞰できるよう整理し、維持管理・更新の考え方についての理解を深め、管理する施設全体最適化をめざすことが必要である。」 | 抜：P.18  基：P.54 |
| 山口 | (2)　更新の考え方にあたっての留意事項  の文章修正 | 先生からの修正（案）どおりに修正  「更新の見極めについては、概ね公会計上の耐用年数の前後にある施設等を対象に、施設の健全性と機能性等をもとに分野・施設毎に更新が必要かどうかを検討する必要がある。  また、分野・施設毎の更新判定フローを踏まえ、更新を見極めるための詳細な点検や調査などを具体の施設を対象にモデル的に実施する等、更新を見極めるためのデータを蓄積・整理していくべきである。長寿命化においても、必要に応じて分野・施設毎に目標寿命の設定を行い、設定された目標寿命に応じた維持管理を行う必要がある。目標寿命の設定とあわせて、将来の更新の見極めにおける課題や、その対応についても整理しておく必要がある。」 | 抜：P.17-18  基：P.55 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 委員 | 指摘 | 対応 | 計画での  対応箇所 |
| 山口 | 目標寿命の設定に関する検討整理イメージ | 修正（赤字部追加） | 抜：－  基：P.55 |
| 山口 | (3)　種々の観点からの施設の寿命  の文章修正 | 先生からの修正（案）どおりに修正  「施設・設備の劣化・損傷状況は、利用環境等の影響を受けるため、その寿命を一律に定めることは困難である。更新の検討を行うための一つの目安として、公会計（減価償却の観点）や国の基準における耐用年数、使用実績に基づく耐用年数、ISO2394による設計供用期間（表 5.2.7参照）などがある。」 | 抜：P.19  基：P.56 |
| 鎌田 | データ管理体制の検討が必要有効である | 修正 | 抜：P.24  基：P.64 |
| 山口 | 標準化するべきである  →標準化すべきである | 修正 | 抜：P.25  基：P.65 |
| 山口 | (1)　ライフサイクルコスト縮減  の文章修正 | 先生からの修正（案）どおりに修正  「建設および補修・補強の計画、設計等の段階において、設計・建設費用が通常より高くなるとしても、基本構造部分の耐久性を向上させることや、維持管理が容易に行える構造とすることにより、維持管理費用や更新費用を最小化するライフサイクルコストの縮減を検討するべきである。」 | 抜：P.25  基：P.65 |
| 山口 | (2)　維持管理段階のにおける長寿命化に資する工夫  の文章修正 | タイトル、文章ともに、先生からの修正（案）どおりに修正  「きめ細やかな補修や創意工夫により長寿命化につなげていくことが重要である。」 | 抜：P.25  基：P.65 |
| 鎌田 | 大阪府技術職員には、技術面と行政面との両方のに対する力量が求められるが、一方で、組織としては専門の分野技術に優れたスペシャリストも重要必要である。スペシャリストには設計から建設、維持管理まで… | 修正 | 抜：P.28  基：P.69 |
| 長尾 | 研修のところで，技術力を身につけることの必要性，研修を受けることの意義などを技術職員に認識させる仕組みつくりを，研修の体系化と併せて行う旨、記載すべき | 1)　分野、階層別研修の制度化（座学とフィールドワーク等のシラバス化）の検討　に、  「研修の体系化にあたっては、技術力を身につけることの必要性、研修を受けることの意義などを、受講者（技術職員）に認識させる仕組みづくりも併せて行うことが重要である。」を追加 | 抜：P.29  基：P.70 |
| 鎌田 | 連携や大学など学識者による技術相談（テクニカルアドバイザーアドバイス制度） | 修正 | 抜：P.30  基：P.74 |
| 山口 | 6.2.1　基本認識、6.2.2　基本的な考え方  の文章微修正 | 先生からの修正（案）どおりに修正  （内容は省略、鎌田先生指摘分除く） | 抜：P.30  基：P.74 |
| 山口 | a)　地域維持管理連携モデル（プラットフォーム）の構築 の文章修正 | 先生からの修正（案）どおりに修正  （内容は省略） | 抜：P.31  基：P.75 |
| 山口 | メンバー構成イメージ | 修正（“イメージ”を削除） | 抜：－  基：P.75 |
| 山口 | 多くの大学（工学部）があり、相互に連携した取組みの連携できる可能性  外部講師→講師派遣 | 先生からの修正（案）どおりに修正 | 抜：P.31  基：P.76 |
| 山口 | 高まりもあって等から多くの主体と連携、協働し、 | “高まりもあって“に修正  連携、協働はキーワードとして残すため修正なし | 抜：P.32  基：P.76 |
| 委員 | 指摘 | 対応 | 計画での  対応箇所 |
| 山口 | b)　住民との協働で進める維持管理  の文章修正 | 先生からの修正（案）どおりに修正 | 抜：P.32  基：P.78 |
| 貝戸 | 3)　大規模更新プロジェクト　の文章に以下を追加。  「さらに、維持管理に対する理解を深めるためにも、更新の設計・施工に携わることは重要な意味を持つと考えられる。」 | 先生からの修正（案）どおりに修正 | 抜：P.37  基：P.84 |
| 貝戸 | 更新コスト  →更新費用（基：P.91、P.46） | 更新コスト（2箇所）、更新費用（6箇所）のため、「更新費用」で統一 | 抜：P.40  基：P.92 |
| 山口 | 8 おわりに　の文章 | 先生からのご意見を踏まえた上で、全面的に見直し。 | 抜：P.41  基：P.94 |
| 木元 | 講義・授業技術研修などの大まかな学習計画（講義研修等の目的、各回の講義研修の内容、担当講師などを示したもの）のこと。 | 先生からの修正（案）どおりに修正 | 抜：－  基：P.97 |